

季節風

2015.12.24

No.36

山鹿市立鹿北中学校

文責：郡 一路

◇二学期、成長の足跡◇

【二学期始業式】

油井重美也宇宙飛行士の話
「実現不可能な夢のように思える、でも素晴らしい」大きな目標と、「頑張れば超えられるかも?」と思える小さな目標を常に持ち続けたことで今の自分がある。

「目の前のすべきことを一生懸命に頑張っていれば、自分でも気がつかないところで道は広がっていくはずだよ」

【体験学習】

働くことの意味や大変さ、充実感などを感じることも、挨拶や反応することの大切さを体験を通して学ぶことができた。

【山鹿市中体連陸上競技大会】

自分の限界をさらに一歩越えようと必死に努力した一人一人が、自分との戦いに挑戦し続けてきた「勝者」です。

【歌声(合唱練習)が響く学校】

一生懸命頑張ることが当たり前の雰囲気がある学校。この校風を、ぜひみんなで大切にしたいと思えます。

【授業研究会、来校者相次ぐ】

「鹿北中の生徒はとてもしっかりとした学習が行われていて感

動しました。」「全員が積極的に発表する姿、一人ひとりの意欲に、「成長した姿が見られて本当にうれしい!」と鹿北小の先生方からも喜びの声をいただきました。

【大成功の清流祭】

一年生は、たくさんの人との出会いを通して学んだ鹿北の伝統、文化、産業を守り育てていくことを、様々な形で表現しました。元氣玉がますます大きくなっていてうれしかったです。

二年生の劇では、一番大切な家族の存在。そして家族への感謝の気持ちを見事に表現してくれました。個性が強い人が多く、一人一人の個性を重ねて、すばらしいハーモニーをこれからもつくりあげてほしいと思えます。

三年生の揺れる思いを、子ども時代から次の時代へと成長していく今の自分たちを、もがきながらも自分の生き方を探す葛藤を見事に表現してくれました。どうか自分ならではの七番目の生き方を一人ひとりが見つけてほしいと思えます。

こんな学校でありたい

カメレオンの話。1匹のカメレオンが嘆いていた。オウムは緑色、ブタは桃色、金魚は赤色・・・動物はそれぞれ自分の色を持っています。それなのに僕には「色が無い」。というのも、カメレオンは周りの色に合わせて体の色がころころ変わる。葉っぱの上にいると緑。ところが秋の紅葉の季節を迎えると赤になり、自分の色が持てない。

ある日、カメレオンは別のカメレオンに出会った。話してみると、彼もまた同じことで悩んでいた。悲しみを共有した安心感からか、彼はこんな提案をした。「僕ら、一緒に暮らしてみないか」。

こうして2匹は行動を共にした。でも行く先々で色は変わる。一緒に黄色になり、緑になり、紫になり・・・。「だけど君と僕はいつもおんなじ」。2匹はとてもうれしかった。

もう40年も前の古い本。それも子どものための絵本。しかし、どんな悲しみや悩みも、共有する「なかま」がいれば乗り越えられる。そんなことを教えてくれている。

もし、隣に、悲しみ悩む人がいたら、その思いを共有し分かち合える、そんな「なかま」でありたい。そして、そんな「なかま」がたくさんいる「学校」でありたいと思う。

【熊本県人権子ども集会】

みんなでつながることで、思いを共有することができ、お互いを理解して、差別をなくしていくことができると思えました。

【山鹿市中体連駅伝競走大会】

自分を、なかまを「信じて」、心と体を「鍛えて」、そして、その鍛えを通して自分を「磨き」、選手として走った人も、選手をサポートしてくれた人も、今までの努力の到達点まで頑張り抜くことができたことで、一人ひとりが、「輝いた」駅伝大会となりました。

【県体力向上優秀実践校三年連続受賞】

鹿北中学校は、二十五・六年度と、二年連続で体力向上優秀実践校として表彰されました。しかし、何と今年度も受賞し、三年連続優秀実践校として表彰されることとなりました。県北の小さな学校の実践が、キラリと輝いています。

【サッカー部、熊本県善行生徒表彰】

サッカー部が、台風後の鹿北グラウンドの片付けや清掃活動を率先して行ってくれました。その行動が、地域に積極的に貢献し、他の人の模範となる活動であると認められ、表彰されました。

【北部ブロック音楽会】

野中教育委員からは、「人数が少なくても一人一人が力をつけていくことで、人の心を動かす音楽を創ることが出来ます。」との感想をいただきました。心豊かになる秋のひとときでした。

【弓道部男子、県大会で見事優勝】

県の弓道新人大大会が行われました。この大会で鹿北中男子が見事優勝を飾りました。おめでとうございます。自分の内面の緊張感やフレッシュな力のたたかいは勝ち、いかに平常心でいられるかが勝負の分かれ目。さらなる前進を。

【防災教育フォーラム】

「被災者から支援者へ」、「地域から守られる存在から、地域の方々を守ることが出来る存在へ」と成長することが大切との決意を披露。防災は地域とつながることが一番。その入り口は挨拶です。

【インクルーシブ教育システム構築】

日本は、すべての子どもや人を障がい等によって差別される環境に置くのではなく、それぞれが必要な支援を受けて、みんなで共生する社会を目指そうとしています。このことは高齢者の方々に対する考え方も共通しており、これからの社会のあり方を左右する大切な考え方なのです。

【第三十六回かほくまつり】

この日のために練習を重ねてきた全員合唱。小学生や卒業生、地域の方々も参加して「山のいぶき」と「ふるさとの川」を歌いました。この二曲は、大人になり、鹿北を離れた時などに、一人ひとりの心の中に鹿北の風景とともに思い出される大切な歌になります。

【アンサンブルコンテスト】

吹奏楽部の四名の生徒は、コンサートホールのような会場で満員の来場者を前に堂々とした演奏を披露してくれました。「緊張しました!」と演奏後の感想を言ってくれましたが、立派な演奏だったと思えます。

【修学旅行】

亡くなられた人も、生きている人もつらい思いをしているので、戦争はもう一度と起してはならないもの。自分が生まれて、今ここにいることを幸せに思った。沖繩の歴史・文化・自然・人々・・・との出会い、自分自身や友だちの新たな一面の発見、そして、そこに感動があったはずですから先も、たくさん「出会い」と「発見」を通して、「感動」のある生き方を大切にしていきますよ。